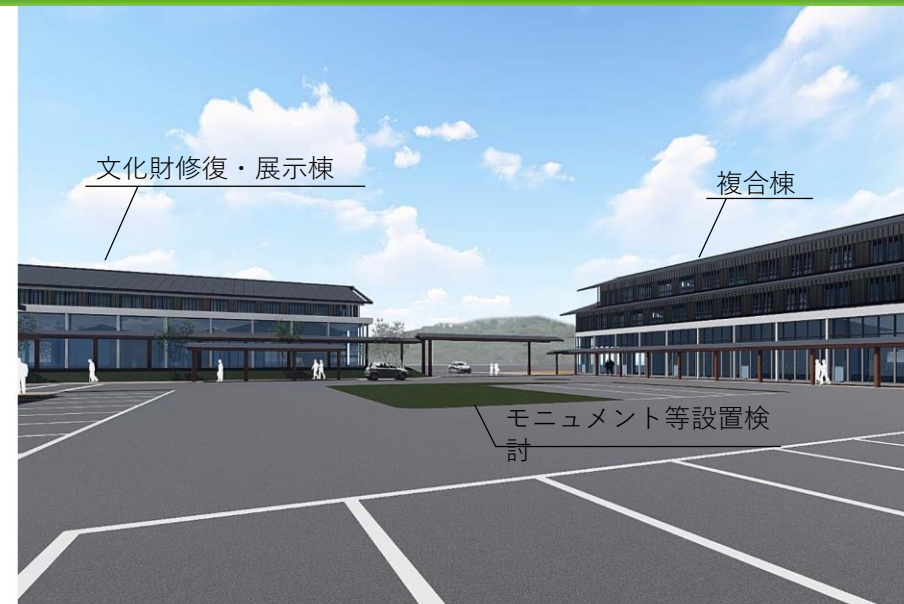




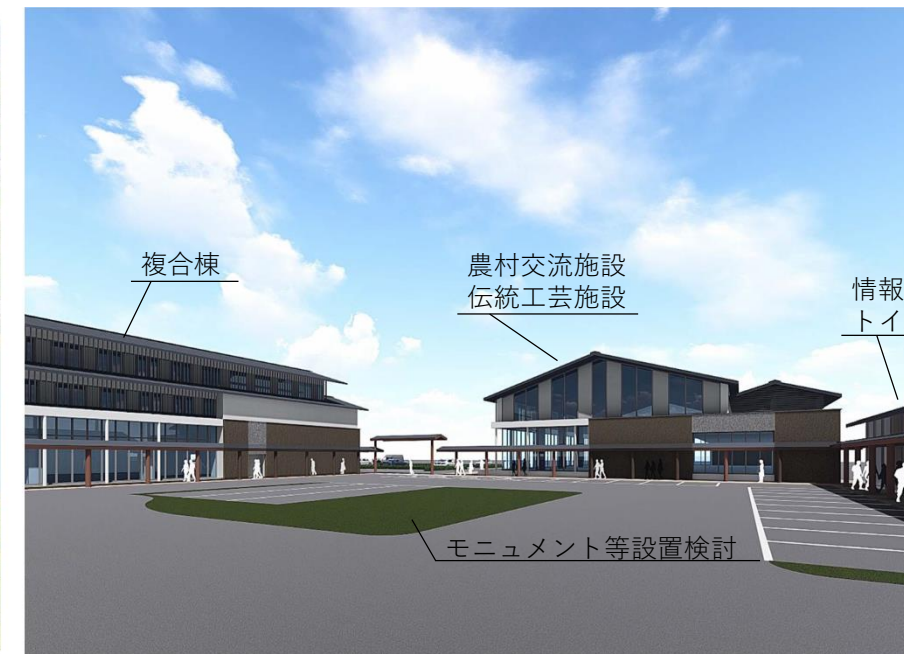
・芸術家村入口(国道25号線側からの視点)



・回廊 西側から東側への視点



・芸術家村全体 鳥瞰図(基本計画と同視点)



・回廊 東側から西側への視点

- 文化財の保存修復の拠点化
 - <移転> 県文化財保存事務所(建造物)
天理市文化財課(考古)
 - <誘致> 美術工芸等の修復団体・企業
(木造彫刻、絵画、古文書等)

- 文化財を含む歴史文化資源活用の拠点化
 - ①公開・解説 ②展示 ③人材育成
 - ④歴史文化資源を題材にした講演や体験等を実施**具体的な取組(案)を以下に記載**



【効果】

- ・国宝や重要文化財など歴史文化資源の保存修復のための伝統技術の承継
- ・来訪者が直接歴史文化資源に触れあい、学ぶ機会の提供
- インバウンドを含めた観光振興や心の豊かさ、潤いを実感

歴史文化資源を活用した主な取組(案)

- 修復作業・解説
 - ・文化財修復作業等と意義を、解説者(宮大工、学芸員等)や映像・パネルなどにより学習

建造物	<ul style="list-style-type: none"> ・建造物修理作業(ガラス越しで常時公開) ・解体部材の補修作業、色彩部材の処置及び詳細調査など ・出張所現場見学会のコーディネート ・芸術家村を出発点として保存事務所の5出張所で見学会を実施
考古	<ul style="list-style-type: none"> ・遺物整理作業(注記・接合・復元作業など)(ガラス越しで常時公開) ・古墳見学会
美術工芸	<ul style="list-style-type: none"> ・解体修理、模造製作 等 (ガラス越しで限定公開)

- 展示
 - ・時期毎にテーマを決めた企画展示の開催と企画展に合わせた国宝、重要文化財等を展示を検討(正倉院展や大芸術祭などの県内イベントと連動した開催を検討)

展示室	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県の多様な文化資源を紹介するために、テーマを設定した企画展を実施 ・奈良時代の彩色を再現した仏像のハンズオン展、文化財とアートのコラボ展、アーティストの作品展 等
特別展示室	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展に合わせた国宝、重要文化財の展示を検討 ・修復した仏像・絵画・古文書・工芸・遺物 等を一定期間展示
工房展示	<ul style="list-style-type: none"> ・修復工程や修復の世界を紹介する

- 人材育成
 - ・文化財建造物補修作業や考古での人材育成を図る。

建造物	<ul style="list-style-type: none"> ・宮大工等の人材育成(保存技術団体、県立高校建築工学科、高等技術専門学校との連携)
考古	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学を学ぶ大学生等を補助員として採用
ACCU	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な人材養成(ACCU奈良事務所)、アジア太平洋地域から研修生を受入

- 講演・体験
 - ・インバウンド観光客や子どもなどの来訪者を対象とした体験、講演会を実施 ※複合棟等での実施

建造物	<ul style="list-style-type: none"> ・宮大工による講演会 ・縮小模型等の製作体験 等
考古	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員等による調査・研究成果発表会 ・勾玉製作体験(石材・粘土)、古墳出土鏡鑄造体験(ミニ古墳出土鏡) 等
美術工芸	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員等による講演会 ・仏像等の彩色体験、巻物等の修復体験 等

建造物の修復



ハンズオン展示



宮大工養成研修



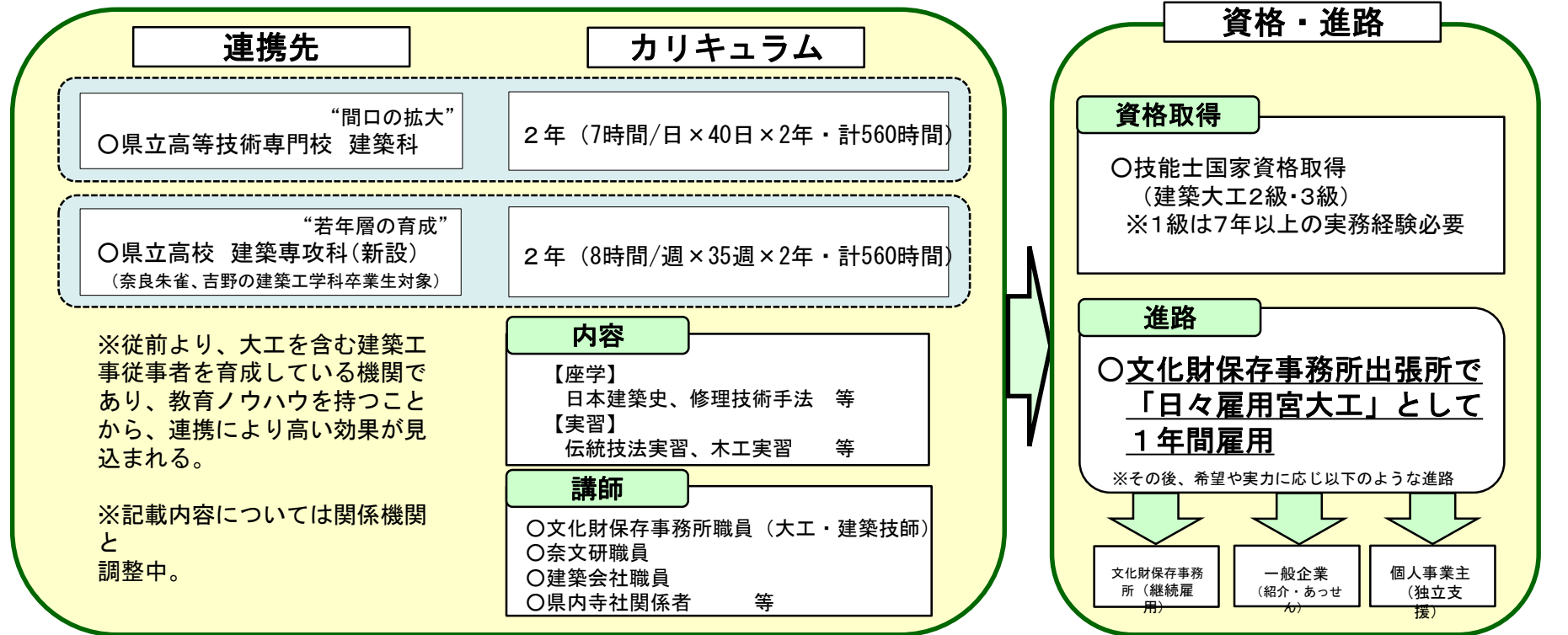
現地見学会



概要

○県文化財保存事務所が、文化財修復・展示棟を拠点とし、文化財建造物の修復に必要な技能（宮大工、左官、建具、畳など）について研修を行い、人材育成につなげる。

例：宮大工の人材育成イメージ



<カリキュラムの特徴>

文化財保存事務所各出張所を活用し、常時豊富にある様々な工程での実習機会を設けることにより、**宮大工に必要な技能を短期間で効率的に習得**することが可能となる。

※宮大工以外の技能者についても、積極的に人材育成を図る。

<課題・検討事項>

- 受講希望者を増やすため、現場公開などによるPRや、学校と連携した勧誘活動の検討(入口)
- 修了者が一般事業者にも積極的に受け入れてもらえるよう、事業者との連携やPRの検討(出口) 等

複合棟での展開(案)について

＜拠点の位置づけ＞
 「本県の強みである歴史文化資源」、「上質な文化・芸術」について、見て、聞いて、触れることができる学習・体験の拠点として整備。

＜整備により期待される効果＞
 ○県外→多面的な魅力による奈良ファンの増加。
 インバウンドを含めた観光振興。
 ○県内→郷土の誇りや愛着の醸成。
 ○共通→心の豊かさや潤い、満足感などを実感。

項目		内容(案)	
1. 学び	体験	芸術	招聘アーティストや工芸作家等による教室（絵画、版画、彫刻、陶芸、陶芸の絵付け、木工、染織、写真、アート、映像、音楽、舞台芸術など）
		美術工芸	仏像のハンズオン組み立て、文化財ミニチュア制作、仏像絵付け、仏像衣装体験、虫喰い古文書の保紙成型ワークショップ、染色体験 など
		考古・遺物	勾玉、埴輪制作、拓本教室、接合復元体験、土器造り など
		伝統工芸	紙漉き体験、赤膚焼体験、茶筌作りで茶道教室、墨・筆で書道教室 など
		伝統芸能	伝統芸能（題目立等）体験、雅楽体験 など
	座学	セミナー・講座	宮大工などの文化修復技術者・伝統工芸の作家等によるセミナー・記紀万葉・聖徳太子プロジェクト関連のセミナー・シンポジウム、古文書解読講座 など
		研修	ACCUによる海外の修復技術者への人材養成研修
2. アーティストの創作活動	創作	スタジオでの創作活動	
	発表	アトリエで制作した作品を複合棟のギャラリーや屋外広場等に展示	
	交流	芸術家同士、地域住民、子どもたち、美大生・芸大生、事業者（地場産業）との交流による刺激を糧にした創作。	
3. イベント	芸術	国民文化祭・障害者芸術文化祭後の文化芸術イベントの継承、奈良県大芸術祭の拠点	
	国際	国際シンポジウムの開催（ACCU等との連携）	
	伝統	伝統芸能（能や地域の伝統芸能を発表、紹介）	



複合棟における取組(案)について

- 複合施設である芸術家村ならではの多様な人材により、これまでにない学び（オルタナティブ教育）を実践
- 日本文化はじまりの地・奈良を体感、満喫できる魅力ある体験講座等により、インバウンド等観光客を誘致

対 象		事業（メニュー）	講師（人財）	目的・効果	
学び・教育	就学前	奈良県内、天理市内の幼稚園、保育園	○感性を引き出す体験 (例) 絵画教室、陶芸体験	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な価値観を持つ次世代の育成。 ○自らの考えの表現方法及び他者を理解する力を持つ次世代の育成。 ○社会の形成者として多様な選択肢を持つ次世代の育成。 ○地域に根ざした社会人としての基礎的な資質の育成。 ○郷土への愛情と理解を育成。 	
	小学生 中学生	奈良県内小中学校 (県教育委員会)	○郷土教育、芸術教育 ○学習旅行 (例) 三角縁神獸鏡鑄造体験		
	高校生 大学生	全国の高校、大学	○職業体験 ○インターン (例) 伝統工芸品制作入門		
	一般	県内外の一般	○生涯教育 (例) 赤膚焼陶芸体験 (例) 記紀万葉講座、古文書解読講座		
観光	観光客	インバウンド等観光客	<ul style="list-style-type: none"> ○観光客向け連続体験講座 (例) はじまりの“書”まるごと体験 (奈良墨にぎり墨、奈良筆づくり、吉野和紙手漉き、書道体験) (例) はじまりの“茶”まるごと体験 (赤膚焼茶碗づくり、高山茶釜・茶杓づくり、大和茶手もみ、茶道体験) (例) 仏師による仏像制作体験、仏像セミナー、僧侶法話会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生 (芸大(美大・音大)、文学、美術史、考古学、農学、民俗学、建築学、歴史学等) ・工芸職人、作家 ・アーティスト ・考古学技師 ・宮大工 ・農生産者、料理人等加工者 ・修復職人 ・仏師 ・僧侶 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○来県のきっかけづくり ○滞在期間の延伸 ○奈良のブランド力を世界に発信 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">観光消費拡大</p>

課題

特色あるメニューを豊富に揃えるため「人財」バンクが必要

インバウンド等観光客向けの案内、旅行商品づくりが必要

検討

・関係者によるワーキング立ち上げ、事業の具体化

- 平成30年度以降 ⇒ 関連イベント実施による共感と巻き込み
- ⇒ キーパーソン、協力者等の発見
- ⇒ 応援団、人財バンク、サポーターの形成

開村までにムーブメントを起こす

- ・情報提供施設についてJNTO認定外国人観光案内所を目指す。
- ・県内各地の文化施設、観光資源と連携した旅行商品造成を検討。

『文化財』保存から、『文化資源』の活用へ

歴史文化資源の活用と文化芸術の振興、国内外のアーティストと地域の人々との交流による賑わいや来場者の流入などの地域振興に寄与するとともに、文化資源を活用した日本の芸術文化の中核施設をめざす要素のひとつとして、アーティスト・イン・レジデンス (AIR) を「(仮称)奈良県国際芸術家村」で展開する。

(仮称)奈良県国際芸術家村におけるAIRの目的

◆地域振興への寄与 (アーティストと地域の交流)

<具体的な取組例>

- ・アウトリーチ (出前授業) による地域の小学生などとの交流活動を行い、こども達の感性を高める
- ・ワークショップを実施し、アートやアーティストと直接触れあう機会の提供
- ・スタジオを開放し、一般来場者への制作風景見学会の開催 (オープンスタジオ)

◆アーティスト支援 (作品制作等への支援)

<具体的な取組例>

- ・アーティスト・イン・レジデンス体験を通じて参加アーティストの経験値を高める
- ・他分野 (文化財修復や伝統工芸の職人と作品) との交流により、新たな作品や作風を見つけるきっかけをつくる

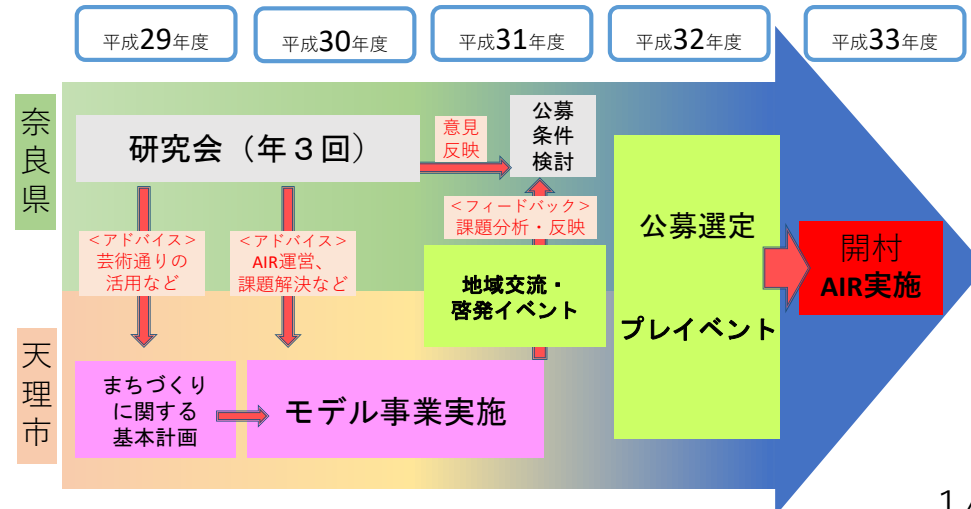
奈良県版AIRの実施に向けた課題

(奈良県AIR研究会で検討、天理市モデル事業で検証 マネジメントサイクル)

○検討課題例

- 1.奈良らしい、天理らしいAIRの在り方
- 2.運営主体の組織形態
民間活用 (指定管理、委託) ・直営・実行委員会など
- 3.募集条件
対象分野、招聘人数、招聘期間、費用支援 (渡航費、創作費、滞在費) など
- 4.機運醸成と賑わいづくりの仕組み
アウトリーチ、芸術家村を核としたイベントの開催、芸術通り・芸術ゾーンを活用したイベントの開催、普段からアーティストが集まる仕組みづくり、地元との交流、大学関係者等との交流など

～事業実施スケジュール～



来村動機を喚起

大人の「知的興味」や子どもの「好奇心」「探求心」を刺激する取組を展開

農村交流施設

目的

- ◆奈良の食と農の魅力発信
- ◆加工品開発や販売など6次産業化と人材育成
- ◆周辺地域を含めた賑わいの創出

実習室

県産食材を使った料理教室や郷土料理教室、加工講習会を開催し、人材育成と奈良県の「食」と「農」の魅力発信

2
階

- (例)
- 大人と子どもが一緒に楽しめる、食と農(料理・健康)の教室を開催
 - 知的好奇心旺盛なシニアも対象にした平日の食と農の講座を開催
 - 農家等を対象に県産農産物を活用した加工講習を開催



実習室のイメージ図

農産物加工室

県産農産物を活用し新しい「食」産業を湧出させる契機とする加工品の開発拠点(パイロットプラント)として展開

- 県産農産物を活用した加工品の開発や試作をおこなう
- 加工品製造を実践し、施設内の直売所で販売または産直レストランで提供



農産物加工施設の事例
(地の味土の香「當麻の家」)

(例)パン、総菜、苺やイチジク・柿などのドライフルーツ等

◆エリアを区分せず「食べる」「買う」「学ぶ」「遊ぶ」を一体展開 ◆ハード+ソフトによる賑わいづくり ◆大人と子どもが共に楽しめる空間

産直レストラン

県産農産物等を活用した「こだわり料理」を年間を通して提供し、奈良の美味しい食材により、おもてなし

1
階

- (例)
- 県産大和野菜をふんだんに使ったサラダの提供
 - 大和肉鶏やヤマトポークなど大和畜産ブランドやあまごなどを活用した料理の提供
 - 使われる食材である野菜の説明や由来などの情報を利用客に提供



物販と飲食スペース一体展開の事例
(ロンドン パラマーケット)

農産物直売所

「地の味土の香」※の一員として、大和野菜をはじめとする県産農産物や加工品などを幅広く取り扱い、来訪客に県産農産物等の魅力を積極的に発信

- (例)
- 大和野菜等のコーナーを設け、農家が消費者に、「旬」や「美味しい料理法」、「農家の思い」などの情報を発信

※「地の味土の香」は、奈良県内の農産物直売所のネットワークブランドで、認定条件は、県内産のものが全取扱品量の50%以上など。

魅力発信・交流等多目的スペース

- (例)
- 奈良の農村の伝統行事や自然、景観など魅力情報の紹介
 - 農産物等の販促フェアや賑わいづくりイベント開催



マルシェでの梨のPRの事例

伝統工芸施設

目的

- ①奈良の工芸の魅力発信
- ②工芸産業活性化のための作り手のプラットフォーム
- ③来場者と作家の交流・文化伝承
- ④工芸品を通じた郷土教育の実施

- ◆「学ぶ」「遊ぶ」「買う」を一体展開(展示内容やイベントに応じて自由に室内の区切りを変更)
- ◆観光客等の来場者にも、工芸品製造者も活用できる「学び」の場を創出
- ◆「奈良ならではの」製作体験(「学ぶ」「遊ぶ」)で他府県等の類似施設と差別化 (※大人数での体験や講演会等は複合棟を利用)

展示・販売ゾーン

- 展示テーマごとに「空間」に拘った展示方法で顧客を呼び込み、惹きつけ、作家・職人等の製造者にとっては刺激となるような展開を行う。現役作家の作品については、併せて販売も行う。
- 特色ある質の高い奈良の工芸品の展示、販売を展開する。

(例)

- 江戸末期に作られた「古赤膚焼」など貴重な作品の常設展示
- 伝統×前衛展、海外デザイナーコラボ展など時代を反映した作品等の展示販売
- 若手作家、美大生等の作品発表及び販売
- 農家レストランへの作品(食器等)の提供等

ワークショップゾーン

- 一般来場者向けの講座、ワークショップの開催(製造者や研究者等が講師)
- 工芸品を通しての郷土教育等を実施

(例)

- ①奈良の伝統文具満喫体験(墨・筆・和紙の全てを製作し、奈良産の文具を用いて水墨画入門)

郷土教育等を目的とした小学生等の大人数向け赤膚焼・奈良筆・吉野手漉き和紙等製作体験は複合棟で実施



伝統工芸ふれあい体験

作り手のプラットフォーム機能

- 奈良の工芸を活性化させるために、「職人・作家同士の横の繋がり」を構築
- 芸術家村を訪れるアーティスト、職人等との交流
- 製造者向けの自立と販路開拓等を目的とした講座を開催
- バイヤーや販売店等から、技術や商品の問合せ窓口機能の設置について検討

(例)

- マーケティング、ブランディングなどに関する実践的な少人数制の講座
- デザインや、専門以外の工芸に関する知識を自学できるように壁面本棚をけ、専門書等を設置
- 作家間のコラボ商品開発の相談等、少人数での会議に貸し出す

(仮称)奈良県国際芸術家村の運営体制及びスキーム等について

【平成28年度 検討の方向性】

- (仮称)奈良県国際芸術家村は、複合的なサービスを提供する拠点であることから、基本計画では、各分野に強みのある民間事業者が創意工夫のもと収益を高める一方、一体管理などの効率的な管理・運営によってコスト削減に努める形態が望ましいことを報告。



指定管理(利用料金制)を中心に検討



【平成29年度 検討の方向性】

- 昨年度の検討結果を踏まえ、事業効果の最大化とコスト削減等の視点に基づき、以下の4つのスキームについて、メリット・デメリットを比較。
 - A:協議会タイプ(官民、地元関係者が合議で全体を運営)
 - B:農村交流施設の受託者を中心として複数事業者が全体を運営するタイプ
 - C:上記Bのうち文化・芸術等の体験学習のみ個別発注するタイプ
 - D:全施設の業務を民間事業者に一括発注するタイプ
- 参画意向など民間事業者との意見交換等を踏まえ、上記A~Dの内から、最適な運営体制やスキームを検討。

■想定されるスキーム(例)

A.協議会型						
	①文化財修復・展示棟	②複合棟	③伝統工芸施設	④農村交流施設	⑤情報提供施設	⑥屋外体験施設
全体運営	【企画・調整、共同PR・イベント】 芸術家村企画協議会(官民地元関係者で構成)					
運営	【修復等】 県	【体験学習】 文化系事業者等	【農村交流施設等運営】 飲食・観光事業者等			
施設管理	【施設管理】 設備会社・警備会社等					
メリット	■ 官・地元関係者の意見が運営に反映される					
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲット設定や事業方針の意思統一が図りにくい ■ 体験学習プログラムが多岐にわたる場合、文化系事業者から再委託される可能性 ■ 収益管理が分かれるため、施設間の相乗効果が生まれにくい (コスト高) 					

C.体験学習・個別発注型						
	①文化財修復・展示棟	②複合棟	③伝統工芸施設	④農村交流施設	⑤情報提供施設	⑥屋外体験施設
全体運営	【企画・調整、共同PR・イベント】 飲食・観光事業者等					
運営	【修復等】 県	【体験学習】 行政が個別発注 【貸館】	【物販】	【農村交流施設等運営】 飲食・観光事業者等		
施設管理	【施設管理】 設備会社・警備会社等					
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲット設定や事業方針を立てやすい。意思決定が迅速。集客責任が明確。 ■ 多岐にわたる体験学習プログラムをノウハウを有する事業者へ個別発注とすることで、効果的な事業展開ができる可能性 					
デメリット	■ 体験学習プログラムの実施主体と指定管理者が異なるため、連携が図りにくい。					

B.全体運営・農村交流施設等運営事業者型						
	①文化財修復・展示棟	②複合棟	③伝統工芸施設	④農村交流施設	⑤情報提供施設	⑥屋外体験施設
全体運営	【企画・調整、共同PR・イベント】 飲食・観光事業者等					
運営	【修復等】 県	【体験学習】 文化系事業者等	【農村交流施設等運営】 飲食・観光事業者等			
施設管理	【施設管理】 設備会社・警備会社等					
メリット	■ ターゲット設定や事業方針を立てやすい。意思決定が迅速。集客責任が明確。					
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 体験学習プログラムが多岐にわたる場合、文化系事業者が再委託する可能性 ■ 収益管理が分かれるため、施設間の相乗効果が生まれにくい (コスト高) 					

D.全業務一括発注型						
	①文化財修復・展示棟	②複合棟	③伝統工芸施設	④農村交流施設	⑤情報提供施設	⑥屋外体験施設
全体運営	【企画・調整、共同PR・イベント】 飲食・観光事業者等					
運営	【修復等】 県	【体験学習】 文化系事業者等	【農村交流施設等運営】 飲食事業者／観光事業者等			
施設管理	【施設管理】 設備会社・警備会社等					
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲット設定や事業方針を立てやすい。意思決定が迅速。集客責任が明確。 ■ 1主体(JV等)による運営のため、施設間の相乗効果を期待しやすい 					
デメリット	■ 体験学習プログラムが多岐にわたる場合、文化系事業者が再委託する可能性 (コスト高)					

(仮称)奈良県国際芸術家村 今後のスケジュール(案)について

- 整備スケジュール概要
- 平成28年度 基本計画策定
 - 平成29年度 造成設計、造成工事着手、建築設計、運営体制の構築検討などを実施
 - 平成30年度 建築工事着手、運営事業者公募検討等予定
～平成32年度中の完成を目指す

- 財源の確保（国交付金等を最大限に活用）
- ・地方創生拠点整備交付金（主としてハード整備）
一次交付(約11.9億円) 二次交付(約8.7億円)
 - ・地方創生推進交付金（主としてソフト事業）
H29年度交付 約0.9億円
 - ・農山漁村振興交付金 H29年度交付 0.2億円

事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
計画策定	基本計画策定				
国際芸術家村構想等検討委員会	◇第4回(6/29)	◇第5回(11/9) 基本計画案を承認	◇第7回(11/8) 建物配置、諸室機能面積等を確認 ◇第8回(2/9) 展示計画・整備費等を確認		
議会関係		◇第6回(3/29) 諸室機能、運営形態等を確認	◇9月議会 予算を議決	◇12月議会 委員会報告	
		◇12月議会 基本計画案を報告 予算を議決		◇2月議会 委員会報告 予算上程	
施設建設関係		地方創生拠点整備交付金を活用し、整備事業費（H30建築工事費）及び関連予算について議決	用地買収・造成設計・工事	建築設計・工事	
運営主体、体制構築検討	運営主体検討業務	運営主体・体制構築等検討 (運営体制構築に向けた諸検討)	事業者公募アドバイザー業務	事業者決定	開村準備

地方創生推進交付金等を活用したH30年度以降の予算（整備事業費（造成工事費、建築工事費等）及び関連予算）について議会へ上程予定

天理市「芸術文化エリア」活性化 企画案

- 「国際芸術家村」と駅前広場「コフン」の2つの芸術文化拠点を結ぶエリアを「芸術文化エリア」と位置づけ、中心的存在として「芸術通り」を整備。
- 両拠点への訪問はもちろん、天理ブランド構築事業「めぐみめぐるてんり」とも連携し、市内各所への周遊を促すことで、「芸術文化に出会える街」というイメージ形成を目指す。

天理市芸術文化エリア

天理駅前広場「コフン」



「めぐみめぐるてんり」



“美しさ健やかさを求めて”をキーワードに、歴史、文化、信仰、自然など幅広いポテンシャルを秘める天理のめぐみを可視化し、ブランドイメージの普及を行う。映像やタブロイド、天理産品開発などを実施。

「芸術通り」

芸術文化エリア創出に向けて、芸術通り関連施策を実施し、周辺観光資源との一体感を高める

1. コンセプト

まほろば巡礼

- ・天理は数多くの“まほろば”が残る、日本創生の源流の地
石上神宮、山の辺の道、1,600基の古墳が現存。信仰、学び、音楽・スポーツなどの拠点も存在。古来からの家族、地域、信仰などの穏やかな“人々のつながり”を見ることができる。
- ・「芸術通り」で、これら天理の“まほろば”を繋ぎ、“芸術文化の街”として編集・発信していく。
日本最古の政権「大和政権」の舞台。国外の史記に掲載が無い“空白の4世紀”でもある。
⇒空白の4世紀をアートにより翻訳し、来訪者の創造力を掻き立てる

2. 施策方針

- ・芸術文化エリアの創出に向け、
芸術通り関連施策および周辺観光資源との一体感を高める施策を実施

つなぐ

施設の連携を図るためのハード整備のほか、観光客と市民、文化・芸術などソフト面をつなぐ
・ルート設定:リサーチを踏まえ、3つのルートを設定する。(次頁参照)
・アート作品の展示:コンセプトに沿った芸術作品の展示を実施。

めぐる

ルートを巡るための施策を実施(主要ルートのシンボル化)
・芸術祭イベントの開催:広範囲へのPRを目的に、回遊性の高いアートイベントを実施。

はぐくむ

芸術通りを歩くことで、天理はもちろん、日本の歴史・文化への教養を深める
・人材育成プログラム…芸術家村のプログラムと連携して実施。
・市民ボランティア…市民参加を促し、エリアでの一体感を醸成。
・ワークショップ…気軽に天理の芸術文化について体験できるワークショップを実施。

「奈良県国際芸術家村」



- 文化財修復展示棟
・文化財修復展示
- 複合棟
・AIR制作拠点
・ホール、セミナー室、体験室
・文化財修復人材育成
- 道の駅、農村交流施設、レストラン、伝統工芸、サイクルステーション、子供体験広場

地域資源の活用

- ・山の辺の道(日本最古の道)
- ・石上神宮
- ・本通り商店街
- ・天理教教会本部
- ・天理参考館、天理大学
- ・古墳群
- ・内山永久寺跡
- ・果樹(柿)、農産物
- ・天理観光農園
- ・親里ラグビー場

天理市「芸術文化エリア」活性化 企画案

＜ルート設定＞



3. 施策展開

(1) サイン、案内板、芸術作品の展示により、視覚的に芸術通り化

(2) エリア内の観光資源に磨きをかける

[例] 山の辺の道・・・“日本最古の道を歩く”イメージの定着を図る

古墳が点在し、人々の暮らしが垣間見られる、日本の原風景

(3) 芸術祭を実施し、エリアの特徴を可視化、回遊性を高める

ルートを巡るアートイベントの開催(アート展示、社寺・古墳、音楽、体験、購買等を組合せ)
アート展示・・・街角およびホワイトキューブ(商店街空きスペース)

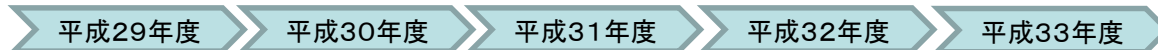
(4) 市民参画

・暮らしや景観の維持 ・沿道店舗の発信力向上 ・アート作品の沿道配置
・施策やイベントに呼応した市民活動の促進 ・既存の市民芸術文化行事との連携

○開村までの機運醸成

○開村後の活用促進

⇒主体的活動、参加、もてなし、産業活性化



・ソフト事業は、県と共同して実施
・事前の対外的なPRを加速し、認知度を高める